



非核平和都市宣言  
 自らの非核平和宣言の趣意である。しかしながら、核兵器の保有は認められず、非核平和に堅持する旨を表明していることは、全人類の共通の願いである。この趣意は、非核平和の推進に資するものである。また、非核平和の推進に資する旨を表明していることは、全人類の共通の願いである。また、非核平和の推進に資する旨を表明していることは、全人類の共通の願いである。また、非核平和の推進に資する旨を表明していることは、全人類の共通の願いである。

非核宣言板26カ所設置  
 平和の像1カ所(若潮公園内)



新浦安駅前第2自転車駐車場に掲出された横断幕  
 毎年7月中旬~8月末頃実施 2015年8月2日撮影

# 非核平和の啓発 事業の推進を!

週刊  
**市議会報告**  
 日本共産党

2016年5月30日  
 第1372号  
 【発行】  
 日本共産党  
 浦安市議団  
 ☎ & F A X  
 350-1243

市議会議員  
**元木美奈子**  
 入船 4-37-14  
 ☎355-8526  
 minamotonton@jcom.home.ne.jp

市議会議員  
**美勢麻里**  
 北栄 2-3-16-203  
 ☎354-9269  
 m5mise@jcom.home.ne.jp

3月議会の都市経済常任委員会にて非核平和事業について質疑した内容などを報告致します。

浦安市は1985年3月29日の「非核平和都市宣言」に基づき、非核平和意識の市民への浸透と平和意識の高揚を図るためとして、非核平和関連事業(表1参照)を実施しています。

現在、市内には、非核宣言板が市役所・公民館・学校など26カ所に設置されています。宣言塔は市役所・駅前には4カ所、平和の像が若潮公園内に1カ所、クスノキが公園など4カ所に設置されています。

## 被爆体験講話 全小中学校で実施を!

東日本大震災後中止されていた平和学習青少年派遣事業は2013年に再開、市立中学校(9校)から各2名、計18名が被爆地長崎市へ派遣されています。

小中学校では、毎年、非核平和パネル展や被爆体験講話が行われています(下表参照)。

日本共産党は予算・決算の審議など機会あるごとに、この事業を市内全小中学校にて実施するよう求めていきます。

担当の地域ネットワーク課は学校の運営カリキュラムの時期が重なるなど「なかなかうまく組み込めない」というのが実態。「小中の校長会議にて継続的に毎年度被爆体験講話をぜひ聞いていただきたい」とお願いをしている「啓蒙取り組みについて引き続き努力していきたいとしています」。

非核平和関連事業
横断幕及び懸垂幕の掲出
非核平和街頭キャンペーンの実施
黙とう実施の呼びかけ
平和学習青少年派遣事業
長崎市へ市立中学各2名づつ
平和祈念式典参列・フィールドワーク・グループ学習
原爆展及び被爆体験講話事業
小・中学校被爆体験講話事業
非核平和パネル展
つくしの会被爆体験講話
被爆者団体育成補助金

## 戦争・被爆体験講話の保存や講話者の育成を

これまで、日本共産党は、非核平和事業の継続のために被爆体験講話の保存、語り部の養成についても求め、市は「事業継続に努めていくよう考える」としています。

市内の戦争体験者の貴重な体験談を含め、保存や継承活動の推進を求めていきます。

事業内容		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
非核平和パネル展	小学校	18校	17校	18校	18校	18校
	中学校	6校	6校	5校	7校	8校
被爆体験講話(浦安被爆者つくしの会)	小学校	13校	14校	13校	10校	16校
	中学校	2校	1校	—	—	—
聴講者数		1673人	1590人	1243人	855人	1646人